

農林水産大臣賞

『給食を残さないために』

茨城県神栖市立植松小学校 五年三組 男子 白倉 遼大

ぼくには、どうしても食べられないものがあります。それはピーマンです。ぼくの住んでいる場所は、ピーマン生産量全国第一の市なので、給食にピーマンが出ることも多いのです。

ある日、学校の道徳の授業で、給食の話になりました。毎日たくさんの給食が残ってしまいます。クラスのみんなはもつたいないと思いつながらも、きらいなものが出ると残してしまうのです。その給食をなぜ残してはいけないのかをみんなで考えました。

「作ってくれた人に迷わくがかかるからです。」

「食材がもつたいないからです。」

そしてそのほかにもこんな意見を言ってくれた友達もいました。

「食材の一つ一つに命があるからです。」

ぼくはこの意見を聞いてとても驚きました。そしてクラスのみんなでもまた考えました。ぼくたちはご飯を食べる前に必ず手をあわせて「いただきます。」を言います。なぜ「いただきます」をいうかというと、食べ物の命をいただいているからです。この意見を聞いてから、食べ物には命があること、そしてその食べ物を生産している人と給食を作っている人の思いが詰まっていることを再確認しました。そして給食を残さず食べようと思うようになりました。でも、やはりピーマンだけはなかなか食べることができません。

ぼくは家族に、このことを話しました。するとお父さんがこう言いました。

「遼大、庭でピーマンをそだててみようよ。」

次の日から、ぼくはピーマンを育てることになりました。ピーマンは乾燥に弱く、水やりを欠かすと枯れてしまうので毎日朝晩二回、欠かさず水をあげました。大きくなると、支柱と紐で枝が折れないようにしてあげたり、肥料をあげたりしました。そして毎日「大きくなーれ！」と声をかけました。そして二ヶ月後、ついにピーマンを収穫しました。ぼくが育てたピーマンを、お母さんが料理してくれました。そして、一口食べてみました。

「ぼくが作ったピーマン、とってもおいしい！」と思わず叫んでしまいました。するとお父さんが言いました。

「お父さんがこのピーマンをまぜいって残したら、遼大はどんな気持ちになる？」

「それは悲しいにきまっていますよ！」

ぼくはその時、がんばって作った野菜を残された時の生産者さんの気持ちがようやくわかりました。かかりました。こんなに手間をかけて食べ物を作っているということもよくわかりました。

学校の給食には、いろいろな食材が入っています。それは、ぼくたちの体の成長を考えてくれているからです。給食を食べられることに感謝し、作ってくれる人の思いを大切にしながら、これからも残さずに給食を食べようと思います。